

9条連 ニュース

— 世界へ未来へ —
Peace Constitution League
Since 1995.8.15

No.357

2024年11月20日 毎月1回 20日発行 1997年4月14日第3種郵便物認可

主な記事

- 巻頭言・戦の^{いくさ}後であり続けたい…………… 1
- IT社会が行きつくところは究極の監視社会 …… 2～3
- 原発事故の被害は形を変えて拡大する …… 4～5
- 沖縄の怒りを我がものに！
玉城デニー知事とともに考える10・24平和集会 …… 6～7
- 10・24集会感想・神奈川9条連総会報告…………… 8
- 政治展望台・映画紹介…………… 9
- 本の紹介・平和川柳
アーティクルナイン…………… 10

代表 浅井基文／浅野健一／植野妙実子／C・ダグラス・ラミス／常岡せつ子
中山弘正／樋口陽一／藤野美都子／山家悠紀夫
〒141-0031 東京都品川区西五反田3-2-13
目黒さつきビル303号
TEL 03-5747-9994
FAX 03-5747-9919



ホームページはこちら

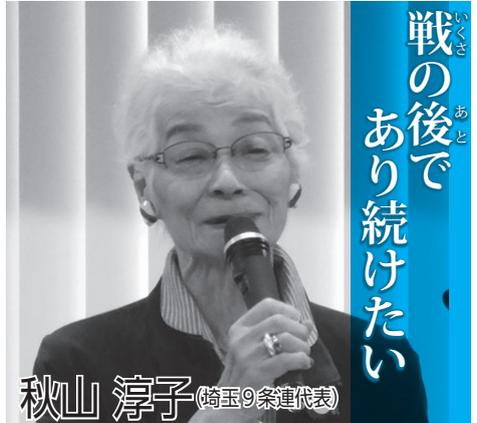
<https://9joren.net/> E-mail:9joren@ams.odn.ne.jp 創刊号1995年1月20日発行 年間購読料2,000円（郵送料含む）郵便振替口座 00160-2-96579 「9条連」

最後の国民学校一年生世代として、安倍政権から続く政権政党の有り様に対する胸のザワツキは、今や大きなうねりとなり、日本は最早新たな戦前どころか戦中に足を踏み入れて、立ちすくんでいるのでは、と映る。特に今回の自民党総裁選の状況を見るにつけ、論理も倫理も持ち合わせない人々が、国民の側を全く向かず、国民一人ひとりが人権の主体である事など、どこ吹く風の如くに、空虚なフレーズ―言葉にもなっていない―の連発にすぎなかった印象を免れない。

かつて吉田茂が「自衛隊が日陰の身で有る事が平和の証しだ」とか、宮沢喜一が「他国に武器を売るほど日本は落ちぶれていない」発言などを確たる政治理念や政治倫理を持っていたからこそ、と今改めて痛感する。国会での討論もなく解散・総選挙、国会無視も甚だしい、議会制民主主義の破壊ではないか。自民党に問いたい。この国の主権者は誰だ。と。自民党は変わらなかったどころか更に劣化した。9条をいじらぬとも戦争のできる国になってしまったのだ。敢えて言いたい。こんな輩に現行日本国憲法をいじる資格はない。

9月10日の「東京新聞」の社説に反骨のジャーナリスト「桐生悠々」のことが載った。悠々が個人

戦の^{いくさ}後^{あと}で あり続けたい



秋山 淳子 (埼玉9条連代表)

方が問われることになる。私には世界が非戦の憲法を持つ日本への敬意の現れとも映る。80年間、戦の^{いくさ}後^{あと}であり続けた事は大きい。

2003年11月3日憲法公布記念日に機会があり当時シカゴ大学教授で、天皇の逝く国で、等の著作があるノーマ・フィールドさんのお話を聞いた。彼女の「早い時期から、9条を改めよう」という勢力が出てきているという事は、世界に向けて9条の持つ抑止力としてのメッセージが浸透してきているという事への「恐怖」ではないか」という言葉に深く頷くものがあった。また、彼女の「日本国民が9条を実態化する事でアメリカ国民へのメッセージにもなる」との言葉も心に残っている。

2003年は小泉首相がアメリカのブッシュ大統領のイラク攻撃に賛同し自衛隊を「国軍」などと発言した。現憲法施行から77年になる。77年間、先人達の血の滲む努力があったればこそと思う。今を生きる我々も先人達の遺志を継承し、2度と戦争をさせてたまるか、の声を内外に発信し続けてゆきたい。それが憲法9条を持つ国の主権者としての戦後責任のとり方ではないかと思う。憲法9条は人間を護り、人間の尊厳を担保する光である。

あきやまあつこ／埼玉9条連代表